

第3学年 算数科学習指導案

日 時 令和6年6月18日(火) 第5校時

場 所

授業者

1. 単元名 「あまりのあるわり算」 (1/7)

2. 研究テーマと関わって

(1) 研究主題

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

(2) 研究内容と関わって

【重点1】数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

① 数学的な見方・考え方の明確化

本時の問題場面と比較できるように前単元の「わり算」で除法の計算を考えた時の学習内容を掲示することで、既習事項と似ていることと違うことが把握するときの補助となる。

全体交流では、それぞれの考えの共通点を話し合うことで、どの考え方もこれまでの学習と同じように乗法九九を使って考えていること、割り切ることができずにあまりが出ることを捉えることができるようにする。

② 数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

掲示を使ってこれまでに学習したことと比較しながら問題場面を把握していくことで、既習の方法を使って考えれば、本時の課題を解決できそうだという見通しをもって個人追究に向かうことができる。

【重点2】主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

① 「個別最適な学び」からの授業改善

個人追究では、これまでに学習してきた知識を使って20個を3人に分ける方法を追究していく。既習の解決方法を示した掲示物、おはじき、ヒントカード、デジタル教科書など、児童がそれぞれの習熟に応じて自己選択し、活動できる環境を整えておく。

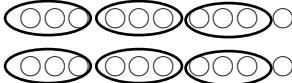
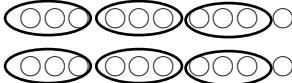
② 「協働的な学び」からの授業改善

スクランブル交流では、自分の考えと相手の考えを比べながら聞くことを意識させるために、自分の考えと似ていた時には赤色のシールを、違っていた時には青色のシールを交流した相手のノートに貼らせるようにする。教師はスクランブル交流の様子を見守りながら、児童の分かったことや分からないこと、曖昧なことは何かを掴み、児童の思考を深く考えさせる発問を考え、全体交流につなげる。特に、児童の「同じです」「分かりました」の反応に対して、どこが同じか、何が分かったのかを問い返し、自分の言葉で話すようにさせることで、児童が最終的に自分自身と対話し、自分自身の学びを自覚できるようにする。

3. 本時のねらい

乗法九九の答えにない数を分ける計算の仕方を考えることを通して、あまりは出るが、乗法九九を使えば答えが出ることに気付く、考えたことを説明することができる。

4. 本時の展開（1／7）

	学習活動	指導・援助・評価		
つかむ	1 既習事項の復習 あめが18こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられますか。 ・同じ数ずつ分けているからわり算の式になる。 ・$18 \div 3 = 6$で、6人に分けられる。	学びの環境 ・本時の課題解決の見通しをもつことができるように、前単元の「わり算」で学習した内容を掲示する。 ・児童が必要に応じて使うことができるように、iPad、おはじき、ヒントカード（教科書P. 90の2つの考え方）を用意しておく。 ・個人追究後にノートを見せながら自由に交流ができるように、教室後方にテーブルを並べておく。 ・自分の考えと相手の考えを比べながら聞くことができるように、交流シールを置いておき、交流後にシールを貼らせる。 赤シール→同じ・似ている 青シール→違う		
	2 本時の問題把握する あめが20こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられますか。 ・1人に3こずつ分けるから、式は$20 \div 3$になりそうだ。 ・式は$20 \div 3$だと思うけど、3の段の九九には答えが20になるものがないからどうしたらいいのかな。 ・ぴったりは分けられないと思う。			
考える	3 課題をつかむ ぴったり分けられないときの答えの求め方を考え、説明しよう。	・除法の式にしてよいかを迷っている児童の意見を聞き、除法の式にしてよいことをおさえた上で課題化する。		
	4 自分の考えをもつ 個人追究 <table><thead><tr><th>図で考えると</th><th>九九で考えると</th></tr></thead><tbody><tr><td> 3個ずつ分けると6人に分けられるけれど、残った2個は分けられない。 </td><td>$3 \times 5 = 15$ 5個あまってまだ分けられる $3 \times 6 = 18$ 2個あまる $3 \times 7 = 21$ 1個足りない 6人だと2個あまって、7人だと、1人分が1個足りないから、6人に分けることができる。</td></tr></tbody></table>		図で考えると	九九で考えると
図で考えると	九九で考えると			
 3個ずつ分けると6人に分けられるけれど、残った2個は分けられない。	$3 \times 5 = 15$ 5個あまってまだ分けられる $3 \times 6 = 18$ 2個あまる $3 \times 7 = 21$ 1個足りない 6人だと2個あまって、7人だと、1人分が1個足りないから、6人に分けることができる。			
ふかめる	5 スクランブル交流をする 6 全体で交流し、共通点を見付ける ・図も式も、3人ずつ分けるから3の段の九九で考えていて、6人に分けることができているところが似ている。 ・2個余っているところも同じだ。 ・式を$20 \div 3 = 6$にすると、まだ2個余っているからすっきりしないな。 ・残っている2個はどうすればよいのかな。	【重点1】数学的活動の明確化 ・既習の方法を使うことができるかどうかを確かめながら課題解決に向かう。 ・既習の方法で計算を考えることができるが、これまでと違い、あまりが出ることに気付かせる。 ・全体交流では、それぞれの考えの共通点を話し合い、これまでの学習と同じように乗法九九を使っていることに気付かせる。		
	7 あまりのある除法の式表示の仕方を知る ・ぴったり分けられないときは$20 \div 3 = 6$ <u>あまり2</u>と書く。 ・あまりがあるときは「わりきれない」、あまりがないときは「わりきれん」と言う。		【重点2】主体的・対話的な学び ・個人追究では、今まで学習してきた知識を使って、20個の分け方を追究していく。 ・交流では、自分の考えと相手の考えを比べながら聞くことができるように、シールを貼らせる。 ・机間指導を行って児童の考えを把握し、全体交流で深く考えさせる発問を考えておく。	
まとめる	8 本時のまとめ 九九の答えにない数を分けるときも、九九を使って考えることができ、わりきれないときは、答えに「あまり」をつける。	・あまりのある除法の式での表現の仕方を理解させる。 ・「あまり」「わりきれない」「わりきれん」の用語を理解させる。		
	7 練習問題を解く（教科書P.90 - 1） りんごが16こあります。 1人に5こずつ分けると、何人に分けられて、何こあまりですか。 式 $16 \div 5 = 3$あまり1 答え.3人に分けられて1こあまる		評価規準【思考・判断・表現】 あまりのある包含除でも乗法九九を使って答えが求められることに気付く、説明している。 （交流の様子、発言、ノート）	